

マネージメント情報

※授精体制についてのお知らせ

5月末日をもって弊社授精師の太田智享、中西晴香、川上晃平の3名が退職し、6月1日から中標津町で新会社を立ち上げ独立開業しました。

太田授精師は平成21年6月にTHMS授精師第一号として採用、授精業務の土台を作りあげ、受精卵移植の普及に貢献し、ちょうど13年間、中西授精師は事務職員として平成26年12月に採用され、その後平成28年8月に授精師免許を取得し9月より授精師として5年9ヶ月、川上授精師は平成30年2月に顧客農場より授精師見習いとして転職・採用され、同年8月に授精師免許を取得し翌9月より授精師として3年9ヶ月の間、各々THMSの一員として勤務しました。

授精師3名の退職に伴い、4月1日に福島瞳授精師、5月21日から川井武志授精師の2名のベテランが採用となり現時点では長山、相内、新卒の夏井授精師と合わせて5名体制を維持できる状況です。

また、7月1日よりもう1名授精師の採用が1年間という短期間ですが決まっています授精業務を充実させていきたいと考えています。

引き続きTHMSの授精師をよろしくお願いいたします。

※愛知県でHolsteinとMontbeliadeのF1受精卵産子誕生しました

HolsteinとMontbeliadeのF1が暑熱に抵抗性があるということで、食肉処理場由来のHolstein卵巣から卵子を吸引し、Montbeliadeの精液で体外受精をして生産した凍結受精卵に愛知県のあかばね動物クリニックの濱嶋先生が興味を示していただき、今回の子牛誕生となりました。



以前のM情報にも書きましたが、愛知県

では乳牛が熱射病になったら食欲不振とか調子が悪くなるのではなく、死亡や廃用になることが当たり前の地域なのですが、その様な状況にならないようにHolsteinとMontbeliadeのF1が置き替えることができるのではないかとということで今回の挑戦が始まりました。

何故、受精卵移植という方法になったかと言いますと、Montbeliadeの精液の販売は道内に限定されていて、府県で販売はされていないということがその理由です。

妊娠・分娩し結果がでるにはさらに2年の時間が必要ですが、Montbeliadeの精液販売会社のフランスのCoopex社の話ではここ数年中南米へのMontbeliadeの精液の輸出が爆発的に増加しているとのこと。在来種にMontbeliadeを交配してF1生産しているそうです。そういう意味でもかなり期待できるのではないかと考えています。

※ 世界の受精卵事情 IETS ホームページより

【世界の受精卵生産量の推移 2001-2020】 IVD が体内受精卵・IVP が体外受精卵

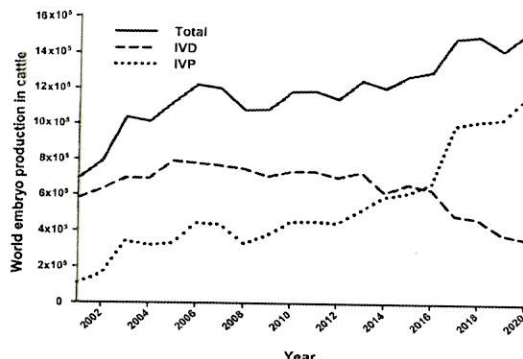


Figure 2. Number of bovine embryos (*in vivo* derived [IVD], *in vitro* produced [IVP], and total) recorded in the period 2001-2020

卵が初めて 150 万個を超えたということ。
また 2019 年に動きが鈍くなっているのは世界的なコロナウィルスのパンデミックの影響と考えられています。
世界的には 2016 年に体内と体外が逆転し、その差は益々開いてきています。
データはありませんが日本国内でもその傾向は現れてきていると考えています。

注目すべき点は 2020 年に生産された受精

【地域別受精卵生産量の推移 2001-2020】

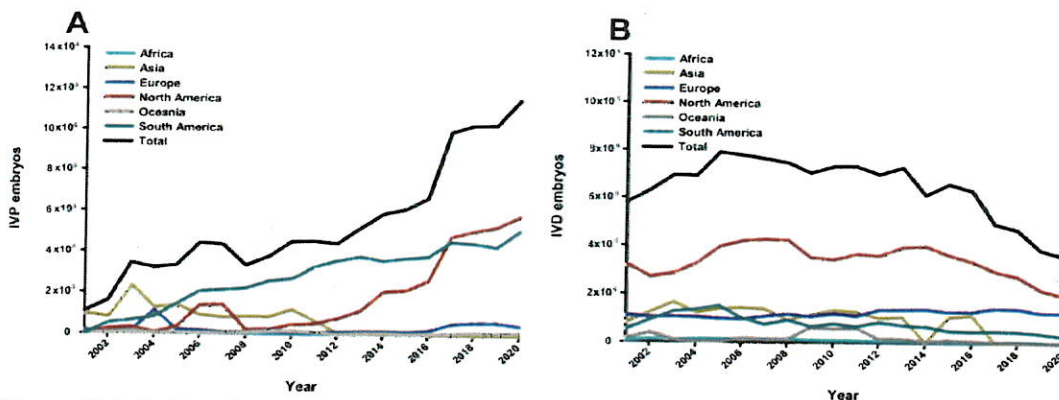


Figure 3 A-B. Number of embryos produced or collected in cattle in the period of 2001-2020, by continent. A) *In vitro* produced [IVP] embryos; B) *In vivo* derived [IVD] embryos

体外受精卵、体内受精卵ともに北米（アメリカ・カナダ）の動向で大きく左右されています。
体外受精卵については南米がリーダーでしたが 2017 年に北米が逆転していますが体外受精卵については南北アメリカの生産量＝世界の生産量になっています。

【体内体外受精卵新鮮胚と凍結胚の推移 2001-2020】

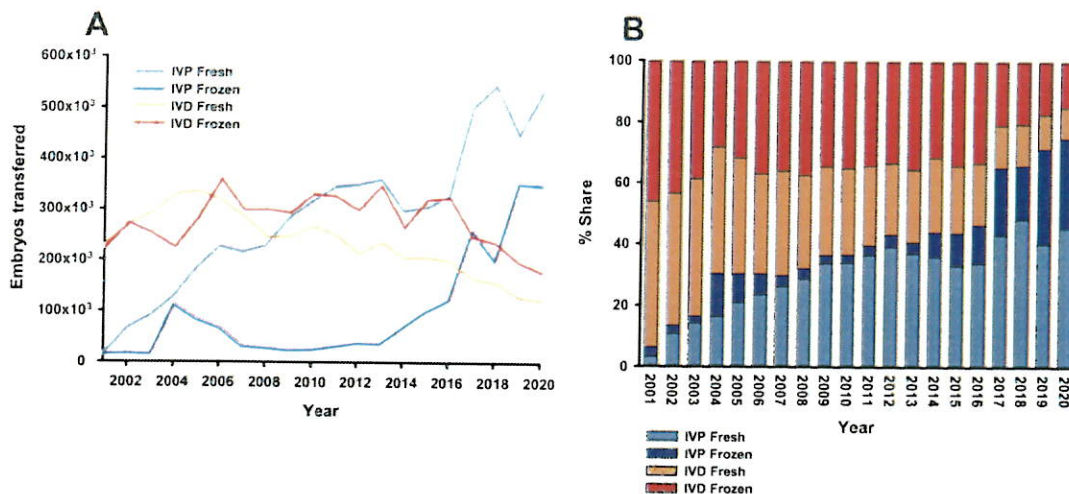


Figure 4 A-B. Embryo transfers in cattle in the period of 2001-2020, according to the origin of the embryo (*in vivo* derived [IVD] or *in vitro* produced [IVP]) and the technique used (fresh or frozen-thawed). A) Number of embryos transferred; B) Percentage share of the total embryo transfers per year.

ポイントとしては体外受精卵の培養技術の進歩に伴い凍結胚の品質が向上し凍結胚の割合が増えてきているということになります。

以前は凍結体外受精卵は体内受精卵と比較して受胎しない受精卵という考えが一般的でしたが世界的にその問題が解消されてきているということになります。

.....

・1970年代に二度あったオイルショック以来の飼料や必要資材の未曾有の値上げは今後どこまで影響を及ぼすのでしょうか？

当時は高度経済成長期真っただ中で、それに伴い国全体で所得も上がって行きましたが現実には「スタグフレーション」という経済活動が停滞しているなかでインフレが進む最悪の状況です。この先どうなるかは神のみぞ知ると言うことなのでしょうが、牛飼いにあって一番大事なことはいつもどおりに僕々と毎日を繰り返すということになると思います。必要以上に牛に変化を及ぼさないということだと思います。

・今年はおオジギの鳴き声がいつもより聞かなくなりどうしたのかな？と、気になっています。尾羽を叩いてでるという急降下の羽音を聞くこともめっきり少なくなりました。ちなみにオオジギは王子ジギではなく冬の水田に多いタジギ（田ジギ）と区別して内陸の地面にいるジギという意味でジギ（地ジギ）の仲間でおオ・ジギが正解です。

・先日移動中に初めてヒグマを見ました。突然道路脇から大きな黒い犬が出てきたと思いましたがそれがヒグマだとわかった時には既に道路を横断していなくなってしまいました。熊出役の立て看板を頻繁に見ますが、どのようにして熊を見つけるのかと思っていましたが一瞬の出来事なんだということがわかりました。